

促成イチゴの本圃の化学農薬を 半減するIPMシステム

病害虫部

1 背景、目的

福岡県の代表ブランドであるイチゴ「あまおう」栽培において、化学農薬の使用を大幅に削減できる病害虫防除体系の確立が望まれています。そこで、本圃（定植後のハウス内）における化学農薬の使用回数を半減するために、天敵や有用微生物を導入したIPM（総合的病害虫管理）システムを確立しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) このIPMシステムは、誰でも簡単にできるように防除手順をスケジュールにしておき、イチゴの作型や栽培方法を問わず、本圃での化学農薬の使用回数を慣行の半分以下に削減できます（表1）。
- 2) 害虫に対しては、天敵（ハダニ類とアブラムシ類）と天敵に影響のない農薬を組み合わせることで、収穫終了まで発生を抑えることができます。病害に対しては、有用微生物を成分とする拮抗微生物剤（ボトキラー水和剤）の暖房用ダクト内投入により、うどんこ病と灰色かび病の発生を省力的に予防することができます（図1、図2、一部データ略）。
- 3) 本システムの詳細は、『福岡県病害虫・雑草防除の手引き（<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/tebiki/pe-ji/ipm-mokuji.html>）』内の「促成栽培イチゴにおけるIPMマニュアル」に掲載しています。

3 主要なデータなど

表1 イチゴの本圃におけるIPMシステム

		主な作業	対象病害虫				
			ハダニ類	アブラムシ類	アザミウマ類	チョウ目害虫	うどんこ病
10月	上旬	マルチ被覆		バンカー準備			
	中旬			モスピランG		トルネードFL	
	下旬	ビニル被覆	コロマイトWP	バンカープラント設置(6個/10a)	スピノエースWP	BT剤	
11月	上旬		ミヤコカブリダニ(5000頭/10a)	コレマンアブラバチ(500頭/10a)		BT剤	タフパールWP
	中旬						タフパールWP
	下旬	収穫開始					
12月	上旬						ポトキラーダクト内投入 散布
	中旬		ダニサラバFL				
	下旬						
1月	上旬		チリカブリダニ(5000頭/10a)	バンカー準備			
	中旬						
	下旬		マイトコーネFL	バンカープラント更新(6個/10a)			
2月	上旬						
	中旬			モスピランSP			
	下旬						
3月	上旬				マッチEC		
	中旬					フルピカFL	
	下旬					ストロビーFL	
4月	上旬				スピノエースWP	トリフミンWP	
	中旬					ベルコートFL	
	下旬			モスピランSP		ルビゲンWP	
5月	上旬						
	中旬						
	下旬	収穫終了					
農薬使用回数		IPMシステム (化学農薬+生物資材)			慣行(県基準) 化学農薬		
		15+8 回			32 回		

注) 1. 黄色の枠内は生物資材(天敵、有用微生物)の使用を示す。
2. 詳細はホームページ上の「福岡県病害虫・雑草防除の手引き」に示す。



図1 ハダニの天敵

左: チリカブリダニ、右: ミヤコカブリダニ



図2 アブラムシの天敵

コレマンアブラバチ